

協会賞・奨励賞

平成 24 年度日本医学図書館協会・協会賞奨励賞選考結果

1. 協会賞・奨励賞選考委員会

委員長 青木 仕 (順天)

委員 大谷 裕 (「医学図書館」編集委員長)、押田 いく子 (東邦)、
佐藤 淑子 (東女)、野口 真理子 (東大)、野坂 美恵子 (東医)

2. 選考経過

平成 24 年度上記協会賞・奨励賞について公募締切日までに応募が無かったため、選考委員会委員より候補があがり、選考委員会において慎重に審査した結果、受賞者を下記の通り決定いたしましたので御報告いたします。

3. 第 84 回(2013 年) 協会賞・奨励賞 選考結果

協会賞

なし

奨励賞

大野 圭子 (朝日大学図書館) 小林 晴子 (愛知医科大学医学情報センター)

愛知医科大学と朝日大学における図書館 Web サービス利用動向調査

医学図書館 2012;59(2):104-10.

[推薦理由]

本論は、今日多くの図書館で提供している Web サービスについて著者らが所属する愛知医科大学医学情報センターと朝日大学図書館のアクセスログを分析し、比較することにより、両館の特徴や利用者サービスの今後の課題について簡潔にまとめている。

Web サービスの利用調査は多くの図書館で関心の高いテーマであり、着眼点が新鮮である。さらに今回の調査は、2 館の共同研究という視点でも斬新であり、両大学は所在が同じ東海地区と地域連携の長所がいかされている。各館にとっても連携の観点からも課題が浮かび上がっており、発展性がある。両大学は、同一の図書館システムとリンクリゾルバを導入していることもあり、両館のデータ解析を比較検討する条件にも恵まれていたものといえる。また、先行研究が少ないという点においても貴重な論文である。

本論の調査対象は (1) OPAC と図書館ポータルサイトの利用状況、(2) リンクリゾルバによる文献検索から文献入手までの流れについてであり、利用頻度に加え、利用のされ方についても重点をおいている。結果では、それぞれの調査対象についてさらに項目分けが行われ、大学別の傾向を、適切な図表を用い、わかりやすくまとめている。例えば OPAC の利用調査では、検索項目の利用頻度を取りあげており、愛知医大では ISSN での検索が 48% と約半数を占めている。これは SFX の中間窓からのナビゲート及び、OPAC で ISSN による雑誌検索を自動で行うよう設定しているためと推測されている。これに対し、朝日大ではキーワード検索が 79% を占めていた。これは社会科学、特に法学関連の資料では、同一書名や類似した書名の資料が多く、一度の検索では、目的の資料にたどり着かず別のキーワードで絞り込むなどの検索を行っているのではないかという考察がなされている。

このように、一つの基準で比較を行うことにより、それぞれの図書館の特徴や強みが浮き彫りとなっており興味深い論文である。

また本研究を進めるにあたって、著者らだけでなく所属する図書館員、企業のエンジニア等、協力者の多い研究であり、関係者間を調整した能力も評価できる。

今日の医学図書館における電子ジャーナルやデータベースの購入価格は、図書館予算の多くを占めている。これらの電子資料の利用の実態と利用者の利用行動の把握は重要である。高額な電子資料の購入費に見合った費用対効果が得られているか、常に図書館は把握しておく必要がある。今回は2館の共同研究であったが、システム化が進む昨今、図書館員と企業が力を合わせるにより、より大規模な共同研究が行えるのではないだろうか。それはLibQUALのような図書館サービス評価基準の共有にもつながると思われる。

本論はその嚆矢となりえる論文であり、この調査結果は本協会加盟館にも示唆に富むものである。よって本論は日本医学図書館協会・奨励賞に値するものである。